

令和4年度第1回豊中市障害福祉センター運営検討部会

令和5年(2023年)2月9日(木)14:00~16:00

豊中市立障害福祉センターひまわり 2階会議室

出席者 委員：大谷悟委員、長永幸子委員
臨時委員：木下初江委員、中村知委員、宮崎知代委員、山崎誠委員
事務局：酒井課長、畑主幹兼所長、加藤副主幹兼地域生活支援係長
河本副主幹兼相談支援擁護係長、前畑管理係長、木村主査
松原主査、島主事、石橋主事

欠席者 星屋好武委員、池田浩三委員

○ 事務局より課長あいさつ、委員紹介、委員出席状況報告

案 件

1. 令和3年度(2021年度)障害福祉センター実施事業報告
2. その他
 - 防水加工工事について
 - 巡回バスルート拡大について
 - 次年度第1回豊中市障害福祉センター運営検討部会開催について

議長 ただいまから、会議に入ります。次第に従いまして、令和3年度障害福祉センター実施事業について事務局から報告をお願いします。

事務局 (地域生活支援係から報告)

議長 今報告がありました令和3年度障害福祉センター実施事業についてご意見等をお伺いしたいと思います。何かご質問はございませんか。

委員 発達障害者支援事業の説明を聞いてよく理解出来たのですが、ご本人・ご家族の方が相談に来られ、いろんな機関と連携する中で、途中で相談をやめられた方は、おられますか？また、そのやめられた理由をご存じですか？

事務局 支援経過の中でヘルパーにつないだ結果、ら・ぷらすの相談支援を断

ってこられたケースが1件ありました。面談や他機関につなぐなど、様々な支援を積み重ねていくことで、本人や家族のニーズが変わることはあると考えています。

委員 ありがとうございます。

議長 よろしいでしょうか。

委員 市民の方は、障害福祉センターひまわりで発達障害者支援事業をしていることをどのくらいご存じですか。関係しているところから電話で色々な相談があり、発達障害に関する相談が続いていたので、どのようにそちらの相談窓口につなげたらよろしいですか。

事務局 障害福祉センターひまわりでの発達障害者支援事業についてはホームページと、広報誌の方でも年2回、相談窓口として掲載していますので、障害福祉センターひまわりまで、ご相談して頂ければと思います。また、事業所等であれば、事前にご本人の了解さえあれば、お声掛け頂ければと思います。

議長 今のご質問は、もう少し認知度と言いますか。その辺をご理解して頂く必要があるというところです。

委員 個々の機関同士がつながって、解決されている事を聞いて心強いと思います。ここしばらく、コロナの影響でうつになり、外に行けなくなったという件数が非常に増え、それが相談支援事業に繋がらずに、こちらに相談に来られたりする傾向にあります。数字の中にコロナの影響は入っていますか。

事務局 コロナについては、ひきこもり支援で影響があったと思います。ひきこもりの方は、ご自宅を訪問して支援することが多いので、ご家族の方から訪問を控えて欲しいという連絡があった場合は、訪問が出来なかったこともあります。ただ、ひきこもりは個別性が高く、個々の状況に応じて支援を行うため、年度による支援件数の差はコロナだけではないとも考えております。

議長 コロナの影響をどう捉えるかは、統計上難しいと思います。

委員 ひきこもり支援とは、どういう支援ですか。具体的な活動内容を、お願いします。

事務局 ひきこもり支援のガイドラインに則り、6か月以上社会との繋がりのない発達障害をお持ちの方に対して専門的な支援を実施しています。内容については、来所が難しい方に対しては訪問し、来所できる方には面談や活動を実施しています。また、家族を含め関係者のご相談も受けながら、支援を行っております。具体的には、可能な方に、コミュニケーション

ョンの手法の1つとして作業活動を取り入れています。人によっては機能訓練室での運動や、必要に応じて屋外に出て散歩をするなど若干トレーニング的な要素も含めています。個々人の状況に応じた形で、支援内容を考えて実施しています。

議長 ありがとうございます。

委員 ひまわりの事業報告書の中の障害者相談支援事業に、延べ人数が書かれています。それと、発達障害者支援事業の利用者の相談に対する方の折れ線グラフを見せて頂いているのですが。相談事業所からこの発達障害者支援事業につながる人は結構少ないですね。

議長 はい。いかがでしょうか。

事務局 令和2年度、令和3年度と、約20,000件と書かれている障害者相談支援事業の相談件数ですが、これはすべての障害と、障害の疑いも含めて寄せられた様々な相談の全件数となります。その中に発達障害あるいはその疑いのある方も含まれます。相談を受けた相談員が、さらに専門的な見立てや支援が必要だと判断された場合に、発達障害者支援事業に連絡をいただいております。

議長 連携が大事とご指摘を頂いたと思います。今後もそのあたりをご留意いただければと思います。それでは、次の議題に入りたいと思います。

事務局 (管理係から報告)

議長 管理係の方からの説明について、何かご意見・ご質問があれば、お受けしたいと思います。特になければ、次の報告に移ります。

事務局 (相談支援擁護係から報告)

議長 何かご質問等あれば、お受けしたいと思います。

委員 相談について、今年から委託されましたね。それぞれ7か所の相談支援事業所から数が上がってきている数には、ばらつきはありますか。

事務局 しっかりと分析はしていませんが、正直ばらつきはあります。数に関しては、どうしても計画相談もやって頂いている関係で。私共の方では、兼務は可能で4名以上の相談員の配置をお願いしていますが、4名の事業所もあれば、10名配置している事業所もあります。兼務やピア相談も含めています。そうすると、事業規模や併設事業により、1件あたりの件数、件数に関しては、人数によって相談が非常に上がってきやすいということになります。その辺で、相談件数に非常にばらつきがあるという状況です。

委員 そうすると、事業所の方で、いわゆる日中事業所を併設されているところだと利用者さんのモニタリングをされますが、それも相談件数に入

るのですか。

事務局 相談員が対応した件数であり、個別支援計画の対応した件数は、上げていないです。

委員 分かりました。

議長 ありがとうございます。少し相談支援の方が組み換えというところもあって、いろいろご尽力も頂いているところとっております。虐待の方は、例年通りの状況で推移していて、相談支援も概ね例年通りの推移になっています。現在、豊中市の障害の相談支援、虐待の件数等については、上がっているとご理解して頂ければありがたいという事でございます。

委員 7か所できた相談支援事業所を訪ねていきましたら、半分以上が精神の相談だと相談員の方がおっしゃっているのですが、そういったものの比率とかは今後出てくるのでしょうか。多いところは、7割、8割と聞いているのですが。

事務局 障害種別毎の統計もとっており、発表できていませんが、昨年のケースで、50%が精神障害か、精神障害の疑いの方のご相談です。おおむね35%が知的、残りが難病などを身体に含めた数です。重複されている方もおられるため正確な数字というのは実際のところは分かりにくく、延べ人数になります。どうしても、精神科病院をお持ちの医療法人がされている相談の窓口は、精神の方の比率が7割、8割ぐらい、逆に知的の方の支援をずっとやってこられた法人は、知的の方の比率が少し高くなるというのがあります。豊中市の障害をお持ちの方でいいますと、身体障害者手帳が13,000人位、精神手帳が4,000人位、知的、療育手帳が3,500から4,000人位ということですが、自立支援医療を受けている方、自立支援医療を受けていなくても診断書をお持ちの方が、10,000人位おられます。その10,000人は、精神保健福祉手帳と重複をしている方がおられ、あわせて身体障害者手帳をお持ちの方の多くが、介護保険の対象になっているというような状況もありますので、そもそもの母数が、精神障害のお持ちの方が非常に多いという状況がありますので、おっしゃられたような状況になっていると認識しております。

議長 認知症の方が精神手帳を取られると、当然数が増えてきます。年齢を重ねてくると、精神障害の方が増加しますので、どうしても割合的に多くなるということがポイントというふうに思っております。

委員 その場合、大阪府内の高次脳機能障害の方も精神保健手帳をお持ちですね。身体に障害を持たれている方は、身体障害者手帳になるのですけ

れど、そういう意味では、余計に多いのですか。

議 長 はい。ご指摘のとおりです。これからは、まだまだ増える傾向にある
と思います。

事務局 （事務連絡）

議 長 ありがとうございます。3点、事務局の方から説明がありました。次
年度の第1回は、7月から8月ごろにさせて頂きたいという事ございま
すので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局 これをもちまして、令和4年度第1回豊中市障害福祉センター運営検
討部会を閉会いたします。皆様、お忙しい中、長時間にわたりありがと
うございました。